



NPO PTPL “ともいき” 便り No.53

平成 26 年（2014 年）6 月 6 日発行

■芒種（ぼうしゅ） 6 月 6 日から 6 月 20 日までの節気

「芒種」の「芒」は「のぎ」と読み、稲や麦などの実の外側についているトゲトゲのことです。「種」はタネ、二つあわせて、「芒種」は「芒」のついた稲や麦などの「種」をまくころという意味です。梅雨に入り、農家の人たちは田植えの忙しい時期を迎えます。

5 月 31 日（土）から 6 月はじめにかけての数日間の日本列島は、7 月末から 8 月を思わせるような猛暑に見舞われました。6 月 1 日は、35 度以上の猛暑日は 27 地点、30 度以上の真夏日は全国の観測地点の 4 割強となる 404 地点で観測されました。この数日間、特に、北海道は観測史上初という暑さになりました。今の時期からこの猛暑では、本当に今年の夏の暑さはどうなることやら、去年の酷暑を思い出し、気が重くなります。

さて、6 月 11 日は雑節の「入梅」です。日本人にとっては梅雨空が続き、湿った、重苦しい空気が漂い「うっとうしい」時季ですが、食物、植物にとっては恵みの時季。人間もここは少し我慢して恵みの雨として見れば、少しは気も晴れそうです。

ところで、「入梅」があれば暦の上では記載がありませんが「出梅」もあるようです。「出梅」の時季としては古くは小暑後の壬の日とする説と、夏至以降の庚(かのえ)の日とする説があるそうです。ちなみに「入梅」の語源は、梅の実が熟する頃に雨季に入るころから来ています。

この時季の花の代表は「アジサイ」で、6 月の季語でもあります。一口にアジサイといっても西洋のもの、野生のもの、さらには園芸栽培の世界では様々なものがつくりだされるなど多くの種類のアジサイがあります。先日テレビでアジサイをテーマにした番組を見る機会がありましたが、本当に、様々な色や花卉の形のアジサイがあります。鑑賞としてのアジサイも紹介され、水に強いという特徴からガラスの花器にアジサイの花だ

け入れた「水中花」やリースづくりから時間がたてばドライフラワーになりシックな色の変化など、いろいろな楽しみ方に興味を惹かれました。また、北鎌倉古民家ミュージアムでは、平安時代につくられた欠けた壺にヤマアジサイを行けている様子も紹介され、ロケーションとマッチし素朴で、ワビサビのある奥の深い花だなあと、感じた次第です。

これからの時季、各地で「アジサイまつり」や「アジサイ展」が開催されます。ちょっと出かけてみませんか、この時ばかりは晴れの日ではなく、雨の日がよさそうですね。

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局)

■ ともいき・ともうみ雑感彼是

6月11日(水)は暦の上での雑節の「入梅」。

(ともいきサイト：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2014/>をご覧ください)

日本列島弧は南北3,300Km、南北に長い国土では、梅雨入り、梅雨明けは、年によって、地域によって異なります。そこで、あくまでも目安として梅雨入りを決めたのが「入梅」(梅の実が熟するころに雨季に入るため)です。現在は、太陽が黄経80度に来る日に決められています。(今年は九州、中国、四国、近畿、東海は梅雨入り、関東も6月5日には・・・と予報されています。)

梅雨の先触れといえる「走り梅雨」があって本格的な梅雨に入り、約30日間、梅雨期となります。(黴(カビ)の出やすいころですので黴雨(ばいう)とも呼びます)。

梅雨の前半は穏やかな霖雨(りんう)ですが、中休みを挟んで後半は荒梅雨(あらつゆ)となり、梅雨出水(つゆでみず)に見舞われることも多くあり、土砂災害、浸水など注意が必要です。

「雷が鳴ると梅雨が明ける」という諺もあり、昔の人びとは雷の到来を首を長くして待っていたことでしょう。

◎梅雨にまつわる季語を拾ってみました。

●青梅雨(あおつゆ)

梅雨の頃はまだ新緑の頃ですから、そこに降る雨を「青梅雨」と表現しています。

●梅雨曇(つゆぐもり)

どんよりとした梅雨の雲に覆われた様子。厚い雲に覆われた暗い日を「五月闇（さつきやみ）」といいます。これも「梅雨曇」です。

こんな日の連続ですと、雲が払われて青空が見えた日は、また「梅雨晴れ（つゆばれ）」と言って喜びもひとしおです。

●梅雨寒（つゆさむ）

太平洋から張り出してくる暑い気団と、北方の寒冷気団のせめぎあい梅雨前線ですが、時には、弱いはずの寒冷気団が勢力を盛り返してきますと、「梅雨寒」になります。そんなことになると途端に火が恋しくなったり、暖かいものを食べなくなったりします。体調を崩すのもこんな時期ですし、「梅雨寒」が長く続くと冷害の心配も出てきます。

●送り梅雨（おくりづゆ）

昔の人は「走り梅雨」を、ユーモアたっぷりに「迎え梅雨（むかえづゆ）」と呼びましたが、梅雨の終わりも、やはり「送り梅雨」と表現しています。

梅雨の末期は概して雷を伴った大雨に見舞われますが、その向こうに日差しが強い夏の風景が、既に見えています。

●その他「梅雨茸（つゆだけ）」「梅雨の月」「梅雨の星」などなど。

昔の人たちは、人と人、人と自然の豊かなコミュニケーションの中で生活し、自然への思いやり、いたわり、優しさにあふれていました。そして、万物の季節に応じた変化を的確に感じとる、勝れた五感、観察力を持っていました。

人間生活圏をつくり、その結果、人工物に囲まれ、自然を追いやって生活している現代の都市生活者にとって、人と人、人と自然の豊かなコミュニケーションの中で生活するのはむりなことなのでしょうか……？

祖先の、先達の知恵と体験、そして今を生きるわれわれの知恵で、人と人、人と自然の豊かなコミュニケーションのある都市を創りあげたいものですね!! 子孫のためにも。

人と人、人と自然の「ともいき」から生まれた言葉の国、日本。繊細な国語を大切に。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

事務局だより

- 本編ではアジサイの話をお伝えしましたが、この時季の花に「どくだみ」があります。これも、6月の季語です。

「どくだみ」はその強い悪臭から毒草と思われがちですが、「どくだみ」の名前からして「毒を矯(た)める」ですから薬草なのです。白い四枚の花びらは、数字の「十」にも見え白十字の花とも言われています。

毒下しの内服から、腫物(はれもの)、化膿(かのう)、切り傷などに効きます。

また、干したり茹でたりすれば臭みも消えるので食用にもします。

(ともいき暦・季語解説より)

- 「ジャパネスク」のサイトもご覧いただき、そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

<http://japanesque.pw/>

- Facebook「ともいきぐらし (<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>)」並びに「おらが富士計画 <https://www.facebook.com/oragafuji>」をご覧ください。そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

- この便りが届くころには、関東も「梅雨入り宣言」が発表されていることでしょう。皆さん、どうぞ、お身体ご自愛ください。

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503

FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp